

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	社会科教育法 (Teaching Methodology in Social Studies)		
ナンバリングコード	K20707	大分類 / 難易度 科目分野	教職科目 / 標準レベル
単位数	4	配当学年 / 開講期	3年 / 通年
必修・選択区分	教職関係科目 (必修): 中学校教諭一種免許状 (社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	K002301	クラス名	-
担当教員名	斉藤 雄次		
履修上の注意、履修条件	積極性や意欲、受講仲間への配慮や責任感、誠実さなど、教員として求められる資質を意識して、授業に参加することができること。特に、授業中の飲食や私語をはじめとする、他者に迷惑を与えるような行為を慎むとともに、講義に絶えず出席して、自己研鑽に努めることができること。 また講義の中では、近年改訂された学習指導要領で掲げられている「主体的・対話的で深い学び」を意識してもらうためにグループワークを取り入れる。その関係で、座席を指定する。		
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 社会編』(東洋館出版社、2018年)		
参考文献及び指定図書	国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』(東洋館出版社、2020年) 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』(学術図書出版社、2019年)		
関連科目	免許取得に必要な全科目		

○基本情報			
授業の目的	学習指導要領の改訂により、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に提供することのできる社会科教員が求められている。そうした教員になるために必要な基礎力、例えば社会科の授業を組み立てる上で持つべき知識を自ら修得する、指導内容に関する資料を自ら収集する、生徒の思考力や判断力・表現力などを伸ばすために、授業の内容や手順、時間配分などについて検討する、などの力を培うことが本授業の目的である。		
授業の概要	実際の中学校社会科の教科書や、文部科学省の発行している学習指導要領、学習指導要領解説、また様々な文献に記載されている学習指導案などをもとに、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に提供する社会科の授業とはどのようなものかについて、受講生同士で検討する。 そのため、講義においては授業計画に即して講義を聴き、メモするだけでなく、自ら調べ、資料を作成し、意見交換し、発表し、授業案を作成し、模擬授業を行うなど多様な活動を組み合わせる。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」	
地域志向科目	該当しない		
実務経験のある教員による授業科目	授業者は福井県内の高等学校において、非常勤講師2年、教諭9年の実務経験を有する。また中高接続にも関心を持っていた。そうした経験を活かし、講義では受講生の教科指導力を高めるのに役立つ実践的な知見も提供する。		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	様々な社会科の授業内容や方法に関心を示し、グループワークや模擬授業に向けて資料を収集する活動、自分の考えを文章化する活動などに意欲的に取り組むことができる。		15点	15点
【知識・理解】	社会科および社会科教育に関する知識を修得し、社会科の授業を構成する上で必要な要素について理解できている。	15点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	学習指導案を作成することのできる技能を修得し、自分なりの望ましい社会科授業の姿について表現したり、模擬授業を行うことができる。グループワークに積極的に参加することができる。		15点	15点
【思考・判断・創造】	教科書や学習指導要領、学習指導案の記述を分析し、そこから分かることについて論述したり、自らの見解を述べることができる。		15点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
成績評価の中心を占めるのは、日頃の授業の中で取り組む課題や事前課題、事後課題に対する評価である。欠席の多い場合、また取り組むべきことにきちんと取り組むことができない場合、必然的に評価が下がることになる。教職を志望する者として、絶えず自己研鑽に励む姿勢を持つことを期待する。 なお、試験や学習指導案などの課題に対しては、適宜フィードバックを行う。また、模擬授業に対してはコメントを加える。	

○その他	
本講義の成績評価と、それに対応する資質・能力との対応は以下の通りである。 Sレベル: 授業で扱う社会科教育の理論知や実践知を十分に理解し、質の高い学習指導案の作成や授業の実践ができる。 Aレベル: 授業で扱う社会科教育の理論知や実践知を概ね理解し、質の高い学習指導案の作成や授業の実践ができる。 Bレベル: 授業で扱う社会科教育の理論知や実践知をある程度理解し、学習指導案を作成したり授業を実践したりできる。 Cレベル: 授業で扱う社会科教育の理論知や実践知を最低限理解し、学習指導案の作成や授業の実践が最低限できる。 受講生の皆さんが中学校で受けてきた授業と、これから学校で教えることが求められる授業とは、異なる部分が多い。そのため、本講義においては学習指導要領が変わる前の学習内容や授業像と、学習指導要領が変わった後の学習内容や授業像を比較し、社会科および社会科教育に対するイメージを広げてもらうようにする。	
なお、受講生の人数によっては、後期の講義内容や模擬授業の回数を、シラバスに記載のものから変更する可能性がある。	

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	社会科教育法 (Teaching Methodology in Social Studies) 齊藤 雄次	授業コード	K002301
学修内容				
1. オリエンテーションー社会科を教える・学ぶとは				
中学校で社会科に関する内容を指導することの意義について、教える側、学ぶ側の両側面から検討する。特に、受講生自身の経験を振り返ること、近年の学習指導要領改訂の背景を知ることを通じて、これからの学校教育で求められる社会科教育について考える。				
予習	学習指導要領およびその背景にある学校教育法をはじめとする学校教育に関わる諸法令に目を通す。			約2時間
復習	配付資料を振り返るとともに、学習指導要領に目を通す。			約2時間
2. 社会科の内容と学習指導要領の変遷				
中学校社会科では何が学習内容とされているのか、それは学習指導要領上でどのように規定され、時代に応じて変化していったのか、などについて理解する。				
予習	中学校社会科の教科書や学習指導要領に目を通し、中学校社会科の学習内容を振り返る。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、なぜ時期によって学習指導要領の記述が異なるのかについて考える。			約2時間
3. 地理的分野の内容と指導(1)ー旧学習指導要領と新学習指導要領の共通点および相違点				
地理的分野の指導目標について考えるとともに、旧学習指導要領から学習内容がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについて、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	旧教科書と現教科書を精読しておく。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、地理的分野を指導する意義について考える。			約2時間
4. 地理的分野の内容と指導(2)ー各項目の学習内容				
地理的分野の導入に位置付けられる「世界と日本の地域構成」、世界各地の気候や地勢、産業や文化とのつながりなどを扱う「世界の様々な地域」、日本各地の気候や地勢、産業や文化とのつながりなどを扱う「日本の様々な地域」でそれぞれ展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、地理的分野を指導する意義について再び考える。			約2時間
5. 歴史的分野の内容と指導(1)ー旧学習指導要領と新学習指導要領の共通点および相違点				
歴史的分野の指導目標について考えるとともに、旧学習指導要領から学習内容がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについて、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	旧教科書と現教科書を精読しておく。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、歴史的分野を指導する意義について考える。			約2時間
6. 歴史的分野の内容と指導(2)ー各項目の学習内容				
歴史的分野の導入に位置付けられる「歴史との対話」、古代から近世までの日本の歴史を周辺の国々と関連させながら扱う「近世までの日本とアジア」、近代から現代までの日本の歴史を世界の国々と関連させながら扱う「近現代の日本と世界」でそれぞれ展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、歴史的分野を指導する意義について再び考える。			約2時間
7. 公民的分野の内容と指導(1)ー旧学習指導要領と新学習指導要領の共通点および相違点				
公民的分野の指導目標について考えるとともに、旧学習指導要領から学習内容がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについて、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	旧教科書と新教科書を精読しておく。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、公民的分野を指導する意義について考える。			約2時間
8. 公民的分野の内容と指導(2)ー各項目の学習内容				
公民的分野の導入に位置付けられる「私たちと現代社会」、現代の社会で見られる経済的・政治的事象と社会に生きる人々との関係を扱う「私たちと経済」や「私たちと政治」、終結に位置付けられる「私たちと国際社会の課題」でそれぞれ展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、公民的分野を指導する意義について再び考える。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	社会科教育法 (Teaching Methodology in Social Studies) 齊藤 雄次	授業コード	K002301
学修内容				
9. 社会科の授業分析と授業案の検討				
地理的分野、歴史的分野、公民的分野のそれぞれに焦点を当て、社会科をどのように教えるべきか、授業事例の分析を通じて検討するとともに、短時間の授業案を設計する。				
予習	文献などから授業開発の参考になる資料を入手し、自身がどのように授業を展開するかについて考える。			約2時間
復習	これまでの配布資料を振り返りながら、自身の実施したい授業案の内容や展開について考える。			約2時間
10. 社会科の授業案の実施・反省と学習指導案の作成				
前時で作成した授業案の一部をグループの中で実演し、自身の取り上げた教材が学習者の理解を促すものとなっているか、等について協議する。またその結果を踏まえて、よりよい授業に向けた改善策について検討するとともに、学習指導案を試しに作成する。				
予習	これまでの配布資料を振り返りながら、自身の実施したい授業案の内容を確定する。			約2時間
復習	インターネット上で公開されている学習指導案を探して分析し、学習指導案の作成方法について理解する。			約2時間
11. 社会科の指導と評価の一体化				
地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容を振り返った上で、生徒の学習の成果をはかる評価とはどうあるべきか、そのためどのように指導をするべきかについて検討する。				
予習	「指導と評価の一体化」に関する資料を精読しておく。			約2時間
復習	前時に作成した学習指導案のうち、評価に関わる部分をどのように記述するとよいのかについて考える。			約2時間
12. 地理的分野の学習指導案の作成				
個人による教材研究、ならびに受講生同士の話し合いを通して、地理的分野の学習指導案を作成する。				
予習	地理的分野の教科書を分析し、自身が実施してみたい授業の内容に関する知識について理解する。			約2時間
復習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
13. 歴史的分野の学習指導案の作成				
個人による教材研究、ならびに受講生同士の話し合いを通して、歴史的分野の学習指導案を作成する。				
予習	歴史的分野の教科書を分析し、自身が実施してみたい授業の内容に関する知識について理解する。			約2時間
復習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
14. 公民的分野の学習指導案の作成、社会科の授業の観察および分析				
個人による教材研究、ならびに受講生同士の話し合いを通して、公民的分野の学習指導案を作成する。また、教育実習を終えた4年生の授業を観察し、社会科の各分野の指導のあり方について検討する。				
予習	公民的分野の教科書を分析し、自身が実施してみたい授業の内容に関する知識について理解する。			約2時間
復習	4年生が実施した授業や学習指導案も参考に、作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
15. 社会科の評価問題の検討				
地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容を振り返った上で、生徒の学習の成果をはかる評価とはどうあるべきかについて、評価問題(テスト)の分析と作成を通じて検討する。				
予習	教科書に書かれている記述や高校入試の問題などをもとに、試しにテストを作成する。			約2時間
復習	評価問題を検討する過程で明らかになった課題を踏まえ、再びテストを作成する。			約2時間
16. 前期分テスト				
前半の15回分について試験を行う。実施の詳細については講義中に提示する。				
予習	これまでの配布資料や模擬授業の経験をもとに、自身にとっての望ましい社会科授業像を明確にしておく。			約2時間
復習				約2時間

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	社会科教育法 (Teaching Methodology in Social Studies) 齊藤 雄次	授業コード	K002301
学修内容				
17. 模擬授業のガイダンスと準備				
前期に学習した内容を振り返るとともに、模擬授業のねらいや進め方について理解する。また、今後の模擬授業に向けた学習指導案の確認や教材・教具の準備を行う。				
予習	前期に自身が作成した学習指導案を振り返り、自身が何をねらいとして授業を構想したのかを確認する。			約2時間
復習	作成した学習指導案、教材・教具の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
18. 地理的分野の模擬授業(1)				
地理的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
19. 地理的分野の模擬授業(2)				
地理的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
20. 地理的分野の模擬授業(3)				
地理的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
21. 社会科の指導と対話的な学び				
今後、社会科の指導を行う上で重要となる、対話的な学びの意義について理解する。また、理解した内容をもとに、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の指導のあり方について検討する。				
予習	学習指導要領の総則を含む、関連部分について精読する。			約2時間
復習	対話的な学びを実現する上で気をつけるべき点について整理する。			約2時間
22. 社会科の指導とICTの活用				
今後、社会科の指導を行う上で重要となる、ICTの効果的な活用方法について理解する。また、理解した内容をもとに、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の指導のあり方について検討する。				
予習	学習指導要領の総則を含む、関連部分について精読する。			約2時間
復習	ICTを効果的に活用する上で気をつけるべき点について整理する。			約2時間
23. 歴史的分野の模擬授業(1)				
歴史的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
24. 歴史的分野の模擬授業(2)				
歴史的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	社会科教育法 (Teaching Methodology in Social Studies) 齊藤 雄次	授業コード	K002301
学修内容				
25. 歴史的分野の模擬授業(3)				
歴史的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
26. 社会科の指導とカリキュラム・マネジメント、外部連携				
今後、社会科の指導を行う上で重要となる、教科・科目間連携としてのカリキュラム・マネジメントや、外部機関と連携しての授業づくりの可能性について理解する。また、理解した内容をもとに、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の指導のあり方について検討する。				
予習	学習指導要領の総則を含む、関連部分について精読する。			約2時間
復習	カリキュラム・マネジメント、外部連携を実現する上で気をつけるべき点について整理する。			約2時間
27. 社会科の指導の実際				
あらためて、教育現場で実践を積んだ社会科教員の授業を分析し、模擬的に授業を経験した自身の姿と照らし合わせるとともに、社会科教員を目指すものとしての自身の課題や今後取り組むべきことなどについて省察する。				
予習	授業実践に関する資料を探し、先行実践と比較した自身の授業実践の特徴や課題について確認する。			約2時間
復習	教育現場で実践を積んだ社会科教員の授業を分析し、その長所や課題について整理する。			約2時間
28. 公民的分野の模擬授業(1)				
公民的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
29. 公民的分野の模擬授業(2)				
公民的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
30. 公民的分野の模擬授業(3)				
公民的分野の模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった模擬授業の意義や課題について共有する。				
予習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘や自身の反省をもとに、学習指導案を修正する。			約2時間
31. 総括—社会科を教える・学ぶとは				
中学校で社会科に関する内容を指導することの意義について、教える側、学ぶ側の両側面からあらためて検討する。また、地理的分野、歴史的分野、公民的分野のうち特に公民的分野に関して、高等学校公民科の学習内容を踏まえた上で何をどのように教えるべきかについても検討する。				
予習	これまでの配布資料を振り返るとともに、疑問に思った点、留意したい点を2~3点、取り上げておく。			約2時間
復習	講義の中で検討したことをもとに、自身にとっての望ましい社会科授業像について考える。			約2時間
32.				
予習				
復習				